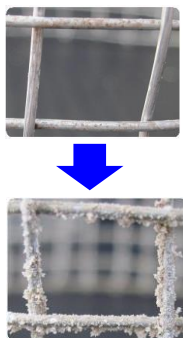
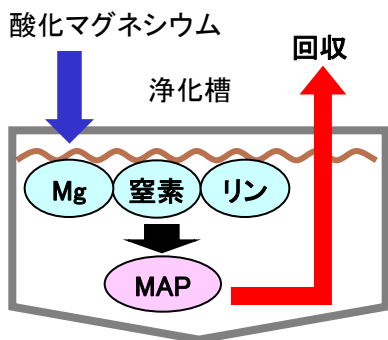


研究トピックス

養豚ふん尿浄化槽からリンを回収

環境負荷の低減と有用資源の利活用を目指し、養豚ふん尿浄化槽からリンを回収する技術を開発しています。浄化槽排水に酸化マグネシウムを加えてpH値を上げると、リンをMAP（リン酸マグネシウムアンモニウム）として結晶化し、排水中から取り出すことができます。この工程を効率的に進めることのできるMAP製造装置を試作し、リンの回収条件や回収方法を研究しています。

(畜産研究部)



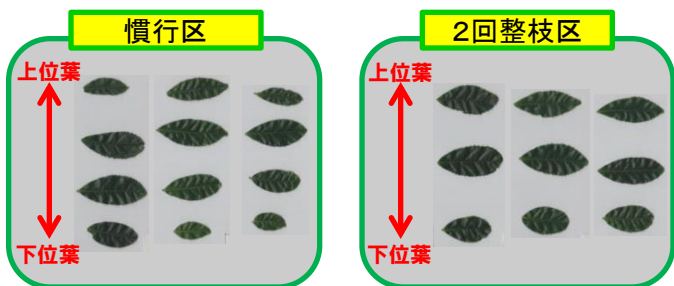
浄化槽排水への酸化マグネシウム添加によりMAPが形成

回収網に付着したMAPの結晶

※本研究は「家畜ふん尿資源化利用推進事業」で実施しています。

食品加工向けの均質なてん茶栽培技術を開発

抹茶味のお菓子や抹茶入り飲料の人気の高まっており、食品加工向けのてん茶（抹茶の原料）の需要が増えています。製品にした際の色ムラを少なくするためには、てん茶の品質が良く揃っていることが重要です。そこで、均質なてん茶を栽培するため、整枝技術の開発に取り組みました。その結果、夏の整枝を慣行の1回から2回にすることで翌年の新芽が良く揃うことを明らかにしました。この栽培技術により、色や成分が均質なてん茶を収穫することができます。（東三河農業研究所）



- ・新芽が良く揃う
- ・収量は同等

天狗ナスの栽培における日射量対応型

かん水同時施肥装置の利用

あいちの伝統野菜の天狗ナスは奥三河の特産野菜です。山間農業研究所では、ソーラー発電によって日射量に応じたかん水と液肥の施用を同時に行うことができる装置を使い、果実の増収と品質向上効果について研究しています。このかん水同時施肥装置は電源の無い露地ほ場でも使用でき、農作物の増収・減肥効果も期待できます。現在、天狗ナスでの収量増加が確認できましたが、さらに増収させるための実証試験を進めています。（山間農業研究所）



日射量に対応したかん水同時施肥装置

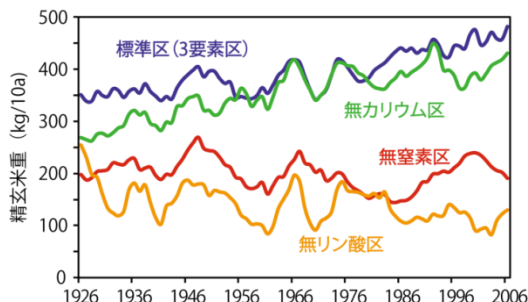


果重が400g以上になる天狗ナス

88年間の肥料試験でわかった土壌のカリウム供給力

農業総合試験場では、大正15年から88年間にわたって、毎年決められた肥料を継続して施す連用試験を行っています。その結果、88年間カリウムをまったく施肥していない水田においても減収は1割ほどにとどまっていました。この原因は、水田の土壌から10a当たり6kg程度のカリウムが毎年供給されるためだと考えられます。また、土壌が保持しているカリウムは半永久的に水田へ供給されるものと予測されます。今後は、このようなカリウム供給を踏まえた新しい施肥法の開発を進めます。

(環境基盤研究部・作物研究部)



研究短報第109号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峰1-1

TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>